

# 令和7年度全国学力・学習状況調査より

## 校内全体研修会(各教科:今後の取組の方向性の考察)

今年度の全国学力・学習状況調査は4月17日(木)に、中学校3年生を対象に、「国語」「数学」「理科」の学力調査と生活習慣や学習習慣等に関する「質問紙調査」が実施されました。この調査の目的は、生徒の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態を明らかにすることにより、今後の指導改善に役立てることです。本校の結果や分析を踏まえた改善点についてまとめましたので、その概要をお知らせします。

### 1 分析の概要 ○…良かった項目について ●…課題のあった項目について

#### 【国語】

##### ○良かった項目について

###### (1二・三)

「ウェブページ」と「ちらし」を読み取り、意図を考える設問。資料がどのような目的や意図で用いられているかを考える問い合わせについては、他の設問においても全国平均より上回っているものが多い。

###### (3三)

文章の内容を参考に言葉の意味を問う設問。「しきりと木の下を探し廻りました…」の「しきりと」の意味を選択するが、全国と比較すると正答率はわずかに上回るくらいということで、正答率としては高くはない。(1一)の漢字を問う設問も正答率が低かったことから、漢字や言葉の「知識」については課題がある。

##### ●課題のあった項目について

###### (1四)

複数の資料をもとに条件にあう自分の考えを記述する問の正答率が全国と比較して最も低かった。【ちらし】【工夫】【感想の一部】を参考にして、条件に添ってメッセージを書く設問。資料と資料を関連づけて書くとう条件を満たして書くことができない。また、すべての資料を用いなければならないが、一部の資料のみを用いているという誤答も多かった。各資料の文章量が多く、内容を適切に読み取る力も必要になる問であった。

###### (2四)

「スピーチ」「スライド」「工夫の仕方」を読み取り、条件に添って文章を書く設問。考えた工夫については記述できているが、スピーチの内容を具体的に取り上げて書くことができない。自分の意見は書くことができるが、文章の内容や情報を適切に使うことができないと考えられる。条件や情報が複数ある記述に課題がある。

###### (4一)

誤字を探し、正す設問。誤字は探し出し、線で消せているが、正しい漢字に訂正できていない割合が多かった。また、無回答率も全国平均と比べて高いため、誤字を探し出せていない生徒も多数いと考えられる。

以上から、複数の資料や条件の下で文章を書くことに課題があることが分かった。また、漢字や言葉の「知識」に関しても不十分であることが分かった。

#### <今後の取組の方向性>

- ・単元の最後には学習した内容を活用して文章を書く時間を設けているが、条件を複数与えたり、資料を読み取らせたりといった限定された中での記述にはつながっていないかったと考えられる。  
そこで、文章を書かせるときには比較できる文章や様々な資料を提示し、複数の条件の中で文章を書く活動を取り入れていく。

## 【数学】

### ○良かった項目について

① 1から9までの数の中から素数を全て選ぶ。

⑦(2) Aの手元のカードが「グー」、「チョキ」、「パー」、「パー」の4枚、Bの手元のカードが「グー」、「チョキ」の2枚のとき、AとBの勝ちやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する。

・全体的に、【知識・技能】の観点で【選択式】問題の正答率と解答率が高かった。

・一問一答形式や問題文が短いものに関しては、問題に取り掛かりやすく、正答率・解答率ともに高かった。

・ワークなど日ごろの基礎・基本問題の定着がある程度見られた。

### ●課題のあった項目

⑤ 下の表は、ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表です。

ハンドボール投げの記録	
階級(m)	度数(人)
以上 未満 5 ~ 10	3
10 ~ 15	8
15 ~ 20	9
20 ~ 25	10
25 ~ 30	6
30 ~ 35	3
35 ~ 40	1
合計	40

20m以上25m未満の階級の相対度数を求めなさい。

⑤ ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m以上25m未満の階級の相対度数を求める。

本問を使って授業を行う際には、ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録について、小学校で学習したことを基に「各階級における生徒数の、学級の全生徒数に対する割合」を求め、データの分布の傾向を考察する場面を設定することが考えられる。その際、例えば、記録が20m以上25m未満の生徒の割合である0.25は、20m以上25m未満の階級の相対度数であり、相対度数は、全体(総度数)に対する部分(各階級の度数)の割合を示す値であることを理解できるようにする。また、大きさの異なる

二つ以上の集団のデータの傾向を比較する活動を取り入れることで、相対度数を用いることの必要性を理解できるようにする。

### <今後の取組の方向性>

・数学的用語は知っているが、その用語の意味までを理解している生徒が少ない。

・相対度数のように考え方の根本が、割合に関することに抵抗をもっている生徒が多い。

・ひとつ答えが出たとしても、別解を考えるような活動が少なく、解き方を1通りしか知らない(考えない)生徒が多い。

・平行四辺形について苦手意識を持っている生徒が多く、平行四辺形になるための条件を丁寧に確認していく必要がある。

・無解答率は全国平均と比べて低く、生徒が問題に主体的に取り組もうとしている姿勢が見られた。

・無解答率が高い問題は、「説明する」「証明する」といった問題が多い。日ごろの授業から、言葉を使って説明→文字を使って説明→人に伝えて説明 と、段階を踏みながら練習する必要がある。

・式・表・グラフを関連付けて考える場面を、日ごろの授業でも取り入れていく。

・問題文が長く、複雑なものに慣れてなく、問題文から必要な情報を選択し、整理する力が必要である。また、問題文に何が書いてあるか、いま何を求めるのかを全員で確認してから、問題を解くなどの工夫が必要である。

・4つの領域のうち、図形分野を苦手としている生徒が多い。様々な図形の証明問題を解き、多面的・多角的に見る力をつけていく。

## 【理科】

### ○良かった項目について

- ・比較、分類、関連付けといった思考する場面を積極的、継続的に授業内で設定することで思考に深まりが生まれた。
- ・論理的思考を促したことにより、問題への対応力が向上していると考える。

### ●課題のあった項目について

- ・課題の意味や問題文の意味を理解することに課題がある。
- ・条件付きの文章を記述する力が弱い。何が問われているのかを正しく理解し、実験データや日常生活の事象などを根拠にして、論理的に文章を構成することに課題がある。

### <今後の取組の方向性>

- ・観察や実験により、直接的な体験をさせると共に、協働的な活動を通して、事象や理論の関連付けを行い、規則性や法則性を見出す授業展開を行う。
- ・比較・分類・関連付けといった思考する場を設定し、論理的思考を促すことに焦点化させた授業実践を行う。
- ・ロイロノートを活用し、個人の意見を書く機会をとっていく。その際、書き方の指導を細かくしていく。他の生徒の記述も共有して参考にし合うよう指導する。
- ・文章や問題を読んで、その意味を人に説明する活動を行う。読んだことを理解し、自分の言葉で伝え直すことで、自分が本当に理解しているか確認させる。
- ・こまめに問題演習を行い、基本事項の確認をしていく。問題を解くことに慣れさせていく。その際ロイロノートなどICTも活用する。

## 【生徒質問紙】※数値は肯定的な回答の割合

### ○良かった項目について

- ・「朝食を毎日食べていますか」の質問には、朝食を毎日食べると回答した生徒が、昨年度と比較して5%以上増加している。
- ・以下の3つの質問「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか(全国 92.2%⇒本校 96.4%)」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか(全国 73.2%⇒本校 82.4%)」「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか(全国 83.8%⇒本校 86.6%)」には肯定的な回答があった。教職員が生徒に寄り添い、生徒の声に耳を傾けることで、生徒たちが何でも話せる環境が整ってきたからだと推測する。引き続き、多くの目で生徒を見守り、生徒理解を心掛けたサポート体制の充実に努めていく。
- ・質問「自分には、よいところがあると思いますか(全国 86.2%⇒本校 87.2%)」「学校に行くのが楽しいと思いますか(全国 86.1%⇒本校 92.7%)」にも肯定的な回答を得た。めざす学校像として「生徒も職員も、登校することを楽しみに思える学校づくり」を継続してきた成果だと感じている。今後も生徒たちへの「肯定的ななかかわり」を大切にしていきたい。
- ・質問「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」については全国平均を5%近く上回った。今後も「教科学習」と「ふるさと教育」の連動に努めていく。

### ●課題のあった項目について

- ・以下の3つの質問「平日(月～金)1日当たり 1 時間以上家庭学習(塾を含む)をしている(全国 62.9%⇒本校 55.4%)」「休日(土・日・祝)1日当たり 1 時間以上家庭学習(塾を含む)をしている(全国 57.9%⇒

本校 54.3%）」「平日（月～金）1日当たり 30 分以上読書（電子書籍を含む）をしている（全国 21.4%⇒本校 11.6%）」には課題がみられた。平日、休日ともに「家庭学習」の時間が全国平均より少なく、かつ読書の時間も少ないことが分かった。生徒たちの健全な成長と学力向上のために、学校とご家庭とで連携しながら取り組んでいきたい。

## 2 これらの分析を受けて各教科の今後の取組の考察

### 【社会】

#### ●課題

- ・諸資料から得られる情報を整理し、自分の言葉で表現する。
- ・情報を読み取り、班で共有、意見のすり合わせをする。

#### <今後の取組の方向性>

- ・時間をかけて資料から気づきを得られるよう促す（導入・対話）。
- ・公民分野…今実際に生活している国民としての視点を文章で表現する機会を設ける。

### 【英語】

#### ●課題

#### ・語彙力

→文字の形と音が一致していないため、音はわかつてもスペルが書けず、文字を見ても発音することができない生徒が多い。

#### ・表現力

→並べかえ問題や空欄補充問題は比較的正答率が高いが、英作文問題の正答率が低い。前時に習った文法を用いた英作文などには取り組めるが、学習してから時間が経つと、忘れてしまっている生徒が多い。また、話すことに関しては、簡単な会話や原稿を準備してから行うスピーチは無理なく行うことができる。一方で、即興で会話やスピーチを行うことは難しい。

#### <今後の取組の方向性>

#### ・帯活動の充実

→フォニックス（文字の音）、単語ミニテスト、既習文法を用いた自己表現活動（英作文・会話など）。

#### ・Unit・Lessonごとにある Speak Talk Write の活用。

### 【音楽科】

#### ●課題

#### ※学テより

- ・複数の資料や条件の下で文章を書くことに課題（国語）。

- ・ひとつ答えが出たとしても、別解を考えるような活動が少なく、解き方を 1 通りしか知らない（考えない）生徒が多い（数学）。

#### ※音楽科として

- ・楽譜や歌詞から作詞作曲者の意図する音楽表現について考察したり、表現活動につなげたりすることがなかなかできない。

### <今後の取組の方向性>

- ・音楽技術に偏重しないようにする。その上で、鑑賞や歌唱教材に対する曲の背景と音楽的要素の関わりが結びつくように、資料を提示しながら、表現方法を書かせたり、話したりする活動を行う。

### 【美術】

#### ●課題

- ・基礎技術から応用への結びつけ。
- ・2, 3年の実技時間の確保をする。
- ・自分の作品に主題(テーマ)をもって制作することが難しい。
- ・自分で調べる学習を強化する。
- ・鑑賞時間の生徒の考える時間を確保する。

### <今後の取組の方向性>

- ・制作前の主題の設定 ・目標をより細かくし、達成感を味わわせる瞬間を増やす。
- ・制作時間と並行での鑑賞の授業展開をする。
- ・グループワークによる他生徒の取り組みを知る時間を設ける。
- ・鑑賞の時間を通して、生徒の構想や主題を考える時間を設ける。
- ・生徒作品を鑑賞する時間を設ける。

### 【保健体育】

#### ●課題

- ・自己や他者の課題を見つけ、話し合いなどを通して仲間と協力して解決策を導き出す力の育成。
- ・根拠を持って自分の考えを表現し、ICT や資料を活用して他者に伝える力の育成。
- ・目標の明確化。
- ・評価の明確化。

### <今後の取組の方向性>

- ・グループワークや意見交換を日常的に取り入れ、「他者と学ぶことの意味」や「学び合いの楽しさ」を実感できる環境をつくる。
- ・目標を細かく明確に示し、課題やその解決へのポイントを生徒自身で考えやすくする。
- ・評価を明確に示し、「見通し・達成度・次への課題」を自分で捉えられるようにすることで意欲の向上を図る。
- ・保健分野ではプレゼンテーションやレポート作成の中で「根拠のある主張」と「資料活用」に重点を置く。
- ・体育でも ICT(タブレット・動画など)を使って、フォームや戦術を言語化・図示化しながら説明する活動を取り入れる。

→中学3年間の中で課題を見つける力や解決力、技能を伸ばしていく中で、生涯にわたりスポーツに親しむ力を涵養させていく。

### 【技術家庭】

#### ●課題

- ・考えたり、ものづくりをしたりするときに根拠となる知識や技能に結びつけて行動に移すことが難しい。
- ・実習をする際の基礎となる技能の定着が悪い。
- ・ものづくりをするに当たり、プログラミング的思考が弱く、自分の考えを形にして表現することが難しい。

<今後の取組の方向性>

- ・問い合わせの設定に工夫 ← 自分で答えを見いだす。
- ・失敗 → 成功するための試行錯誤 という意識に変える。
- ・答えではなく、根拠を問う。
- ・作業工程や評価基準を明確化することで、意欲をもってトライできる環境づくりをする。
- ・知識を根拠に、実習ができるように、なぜそうすべきなのかを考えさせる場面を設定する。